

絶え間なく創意工夫を続ける①

社員であろうがPAであろうが、働いているということは時間を費やしていることである。

一日の内、たった3時間であろうが8時間であろうが働くことに時間を費やすということは、自分の人生の何分の一かを費やしているということは事実である。

貴方にとって花まるがどんな価値を持っているのか分からないが、しかし自分の人生を価値あるものにしたいと思うのも誰でも同じであろうと思う。

とすれば、この働いている時間をもっともっと有意義なものにしなければならないだろうと思う。

さて、仕事が職場が有意義であるということはどういうことか？

それは、自分が「成長すること」、「楽しいこと」だと思います。つまり、「価値あること」だと思います。

だとすれば、言われたことをこなす指示待ち型やイエスマンタイプなどの受動型ではなく、自分の意思で仕事をする自燃性(ジネンセイ・自ら燃える)タイプの能動型。

自分の意志で仕事をする自燃性(ジネンセイ・自ら燃える)タイプの能動型のひとつは、創意工夫しながら仕事をするタイプです。

“それより、もっとこうやってしたほうがうまくいくのでは？” “なんでうまくいかないんだろう？ これを使えばうまくいくかな？” こんなことをのべつまくなし考えて実行すること、それが創意工夫。

つまり、自らの意思で考え実行すること。

僕はいつも思います。

指示命令で与えられた仕事だけをしていて楽しくないだろう、「そこにいるだけ」みたいな仕事は楽しくないだろう……自分でああでもないこうでもないって考えながら仕事をしたらどんなにか楽しいものを……

そんなふうに思うことがしょっちゅうあります。みんなの仕事ぶりを見ていて、それくらい「やらされ感」を感じたり、「マンネリのこなす仕事ぶり」を感じたりします。

そうは言っても、“もっとこうしたほうがいいのではと提案しても聞いてくれないじゃないですか”という声が聞こえてきそうです。

それは残念なことに事実だと思います。

確かに貴方が折角良かれと思って言ったことを、「ちゃんと聞いてくれない」ことのほうが多いかもしれません。よくないことです。

たとえ貴方の提案が間違えているとしても、その思いに対して真摯に応えないのはよくありません。

貴方の提案がダメならダメで、こうこうこういう理由でダメですと真摯に説明があるべきです。

しかし、現実ですからそのことにとらわれすぎて『やる気』を失くすという**責任転嫁**はやめましょう！

だって前述したように、貴方が働くことに費やしている時間は貴方の人生そのものですから。

有意義にするための方法を考えましょう！

さて、貴方の創意工夫の提案を聞いてもらえる方法は……

僕ならこう考えます。

まず、自分に自力をつける！

自分に自力をつけることで、今の自分の力量ではなかなか聞いてもらえない創意工夫の提案を聞いてもらえるようにする。

そして僕は、**貴方の力量を上げるためにも創意工夫が必要**だと思っ

ています。つまり、創意工夫は『仕事のできる人間』を造ることです。

さて、『創意工夫』というのは、「**いきなり発明発見**」ということではありません。

地味にコツコツ、ほんのちょっとしたささいなことを改善し続けることです。

「いきなり発明発見」、そんなこと、世の中にあると思いますか？

世の中にある「いきなり発明」というのは、我々には見えないところで、実はそれまでに何度も何度も繰り返し繰り返し、失敗と成功の積み重ねがあって「発明」になっているわけじゃないですか。

結局、「発明」にいたるまでのプロセスは、『地味にコツコツ』『試行錯誤』『小さな失敗と小さな成功』をさんざん繰り返しているに決まっているじゃないですか。

大事なことは、この『小さなこと』です。

小さなことは地味なことです。違いますか？？？？？小さなことは地味なことですね！

では、どのくらいが小さいことかと言えば、

例えば、時間で言えば、1秒にも満たないこと。

そんなことをイメージしてください。

速さで言えば、1秒を縮めること、それが創意工夫です。

“なあ～んだ、それくらい”って思いましたか？

そうです、たったそれくらいのことで充分です。貴方にも間違いなくできます。

但し、それを絶え間なく続けることです。我々の仕事は、毎日の仕事は同じことの繰り返しをしているわけですから1秒は非常に大きな意味を持つのです。

小さなことをいくつも創意工夫で進歩させる、

つまりそれは「仕事ができる」ようになるということです。

貴方が仕事ができるようになるには、地味にコツコツと自分の仕事ぶりに創意工夫を重ねていくことです。

それは自分を進歩させることです。以前よりも仕事ができるようになって周囲を認めさせることで、貴方の存在感が変わってきます、大きくなってきます。そうすると、貴方の提案を周囲が聞いてくれるようになります。